



森ボラ 通信

第240号 2022年5月20日発行
NPO法人 **北海道森林ボランティア協会**

URL <https://www.shinrin-npo.info/>

札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8ラルズ生活研究センター
TEL (fax.): (011) 816-7010
E-mail: hshinrinv2002@nifty.com

トピックス

◆ 「家族で森林ボランティア（コモドの森）」が始まる

5月4日（水）みどりの日に第1回コモドの森を行い、協会のご家族（祖母と8歳のお孫さん）が参加しました。朝の内は小雨が降っていましたが次第に晴れ、森を散策しながら上流橋まで行き、シイタケを収穫しました。

その後、エゾサンショウウオの卵がいる沼を見て中流橋を渡って、途中倒れている木をのこぎりで切ったりしながらキャリコ橋を回って、広場まで戻ってきました。広場ではシイタケやナメコの菌を、電気ドリルを使ってホダ木に穴をあけ植菌を行いました。

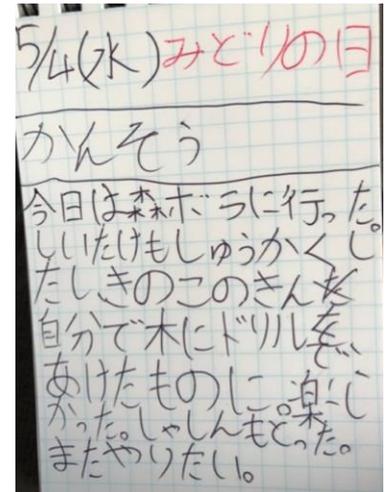
5月7日（日）は、夫婦と2人のお子さん（5歳、3歳）、母親とお子さん（10歳）、4日に参加した協会の家族



みんなで植菌をしています

の参加になりました。この日は、4日の活動に加えバーニングペンを使ったお絵かきをしました。

これからは、協会のボランティア活動の見学や一緒にやってみることなどを取り入れてみたいと思っています。協会の皆さんも気軽に来ているご家族に声を掛けていただきたいと思います。（文・矢野）



活動報告

◆ 野幌国有林「野幌トトロップの森」活動開始

2018年9月に台風被害を受けた「野幌自然休養林」において石狩森林管理署と2021年12月に協定を結びました。場所は野幌自然休養林の南西側で江別市西野幌49、50林班(面積18.4ha)を「野幌トトロップの森」と名付け今年度から本格的な活動を開始します。

今年最初の活動は5月13日、立命館慶祥中高等学校横のトド山口駐車場に集合し、作業道具を積んだ軽トラックを先頭に国有林内に入りました。駐車場から現場までの林道は散策をする人も多く、野鳥の声がたくさん聞こえ、道端にはエゾエンゴサク、ニリンソウ、エンレイソウ、シロバナエンレイソウ、シラネアオイ、スマレ類などスプリング・エフェメラル(教わったばかり)がいっぱい！

初めに49林班入口で朝礼とラジオ体操を行い、49林班た小班の風倒被害区域に入り稚樹発生状況を観察し、稚樹にピンクテープを付けました。確認できた樹種はキタコブシ、ホオノキ、ハルニレ、ハウチワカエデ、ケヤマハンノキ、ヤチダモ、オヒョウ、トドマツなどです。本数はた小班-1,2合わせて110本になり、1ha当りに換算すると650本程になります。購入苗による植栽の必要本数は最小限と考えます。



林道の脇で朝礼、ラジオ体操



自生稚樹を探しビソナーブ付け

次にへ小班に移り、ここは笹が密生しているためか、稚樹の発生は少なく思いました。作業に支障になる倒木、枯損木も多く、植栽までの準備に時間がかかりそうです。今後の活動は危険木処理、稚樹マーキング、笹刈り、通路確保、地拵え、植栽を予定しています。

午後からは50林班奥の“り小班”を観察しました。ここの風倒面積は2.12haと一番広く、幅50m、奥行き400m程となり根株、大枝も多く作業は大変だと感じましたが、森林管理署で地拵えをしていただく予定なので、その結果を見てから作業予定を立てます。植栽する場所だけ地拵えを行い“群植え”を行う事は可能と思いましたが、資材の運搬距離が長いために作業道の整備が望まれます。

今回の見回り観察ではシカ、ウサギなどの動物による食害は見つけられませんでした。広葉樹の植栽では道有林で行っているツリーシェルターの採用が必要と考えます。また、植栽本数の目安は自生稚樹を含めて1ha当り1,000本程度とし、根株、枝葉が多く地拵えが難しい箇所では1箇所5本程度植栽する“群植え”を採用することも必要と思われます。今後も皆様の協力を得て、野幌の自然が一日も早く回復するお手伝いをしたいと、強く思いました。(文・樫棒)

◆ 2022年度第1回親子森林教室活動報告

開校式を行い、キノコの植菌作業を体験する

4月17日(日)曇り、風は少し冷たい中、第7期目となる親子森林教室が開校しました。今年の森しり隊員17名のうちの10名、保護者8名(7家族)、森ボラ協会員15名が参加しました。開校式の始まりと同時に祝砲(轟き(本当は真駒内演習場の音)、途中で薄灰色の鷺のつがい羽音を立ててギンドロの梢を渡っていくという、自然の演出が華を添えてくれました。

初めに主催者の樫棒代表から、澄川の森は札幌ドーム16個分の約88haの広葉樹の森で、季節ごとに変化する森を楽しめること、森ボラ協会はこの森を育てるための様々な作業をしているが、森しり隊員にもそうした作業を少しでも体験してもらい、森を楽しみ学んでくださいという挨拶がありました。

続いて自己紹介で、協会員15名はそれぞれの個性を一言挨拶しました。森しり隊員は家族ごとに自己紹介、好きなことの紹介でユニークだったのは、怖い話を聴くこと、鋸やナイフなどの刃物を使うこと、恐竜大好き女子など！保護者では、森の微生物に興味がある、日常では味わえないことを体験させたい、昨年一年間は親子森林教室の待機者として期待を温めてきたなどの紹介がありました。親子とも「自然大好き」感が伝わってきました。

次に三橋さんから一年間の活動紹介があり、「森しり隊の活動はSDGsにつながっている」という大きな視点から、「君たちがこれから体験する中で、森の大切さを知り、地球環境の保全を考えるきっかけになれば幸いです」と投げかけました。続いて大窪さんから約束事と安全確保のための説明があり、森の中の危険な虫や植物の解説や、もし刺されたりしたときの対処法などの紹介もありました。各自のネームプレートづくりについては、松藤さんからいろいろなデザインの紹介があり、帰りにプレートとバーニングペンを持ち帰ってもらい、自宅で作成してもらおうこととしました。

以上で開校式終了、隊員は2-3名ずつプラス保護者の4班に分かれていよいよ今日の活動に入ります。午前は早春の森歩き。小屋前広場を出発してキャリコ橋に向かい、中流橋を渡って小屋前広場に戻るコース。枯れ葉が乾いて歩くとカサコソいうので、「枯れ葉を集めて焚火で焼き芋をしたーい」というお母さん！森で焚火は厳禁という昨今の厳しくも寂しい事情を説明しました。ジュニア組は小枝を刀のように振り回したり、もう真っ黒になった北コブシのハナガラを拾って大事に持



少し寒かった開校式



雪が残る早春の森を歩く

ち帰ったり、咲き始めた水芭蕉を背に家族写真を撮ったりしました。小屋前広場に戻ると、すぐ脇の沼地にマガモのつがいが水浴びをしていました。

午後のプログラムはキノコの植菌体験。「キノコ博士」の荒船さんから、市販の菌床栽培のシイタケひと山を前にミニレクチャー。「キノコは森の掃除屋さん」との説明を分かりやすくしていただきました。

いよいよ4班に分かれて植菌開始。皆、すぐに夢中になりました。穴あけドリルが各班に1本と限られるので、どうしても待ちぼうけ組が出てしまいます。あ

る班では、位置決め物差しで先に原木にマッキーで印を付けて次のメンバーに物差しを渡し、その間に穴あけ、菌コマ打ちと、作業が流れるように工夫していたので、さっそく他の班にも伝達、そんなひと工夫が作業の流れを良くしますね。今回は参加者が少なかったなので、各班で4~5本の植菌ができました。

そして本日のまとめと終礼。隊員の感想では、「植菌が楽しかった」が圧倒的、他には、色々な動物に会えて嬉しかったという感想もありました。鷺とマガモのツガイの他にも動物に会えたのかな？鹿の足跡や糞はたくさんありました。解散時には、荒船さんが用意した菌床栽培のシイタケ山から、銘々でキノコをmoidお土産に持ち帰りました。

こうして滞りなく2022年度第1回親子森林教室を終了しました。プログラムも参加人数も適度で、協会員にとってはゆとりのある1日でした。次回は森しり隊員全員が参加できますように。

(文・合田)

■ 澄川の自然 33

エゾヤマザクラ (蝦夷山桜・バラ科)

別名、オオヤマザクラ。北海道の代表的なサクラ、本州のヤマザクラに比べ、葉や花が大きいことによる。花は葉と同時に展開、葉は単葉で互生、花は両性花。

写真は澄川で一番大きな桜として上流橋に向かう左手、B1地区にあり、どうして標準木に選ばれなかったのかなと思うほどりっぱな桜です。

今年は暖かく、昨年より開花が一週間位早く、5月日設定の観察会と開花がうまくマッチし、いつもの年よりもサクラの木が増えたのではないかと思わせる位、山全体がピンクに染まり満足いく観察会になりました。

改めて、澄川の森を大切にしたいという思いになりました。サクラ開花の標本木を札幌気象台はソメイヨシノにしている様ですが、何故エゾヤマザクラにしなかったか不思議に思います。(写真・文/西野(澄))



新入会員の紹介~よろしくお願ひします!

なかやぶ よしゆき
◆中教 義之さん(60歳)

還暦を機に何か地球環境の為に自分でできる事は無いかと探していたところ、森ボラのホームページにたどり着きました。体験参加して当日に入会申し込み、定年も延長になったので会社の仲間にも活動を勧めたいと意欲満々です。

はやし ふじお
◆林 富士雄さん(66歳)

昨年仕事が一段落した事と、森ボラ会員の同級生達からの強力な勧めもあり体験をする前から入会を決断! ? 全国の山と巨木を巡る旅が大好きで、森ボラにピッタリの趣味をお持ちです。

まだ仕事があるので頻繁には参加できませんが、銭函から頑張って参加する予定です。

■ 今月の幹事会

出席者(5/10):大窪・荻田・樫棒・加藤・清澤・釣井・西野(澄)・松藤・三橋・矢澤・矢野

1. 2022年6,7月活動スケジュール(6月幹事会6月8日(水)):支笏湖周辺宿泊活動の復活。
2. 2022年4月末会計報告:一部修正後に了承
3. 2022年度森林・山林多面交付金事業の変更:国有林(水明、野幌)が対象外となり見直し:了承
4. 親子森林教室第1回活動報告:了承
5. 現場報告
 - ・ホダ木、植菌状況:シイタケ、ナメコ各4,000個植菌終了。今期採用した原木の葉枯し方法は伐倒した木を探すのが困難。これまでの栽培方法に加えて、短木栽培・山中での長尺木栽培に挑戦。
 - ・野幌道有林の状況:防獣網が大雪の影響で倒壊。杭打ち直し、網の補修実施。
6. その他
 - ・20周年記念専門委員会:第9回委員会報告を了承。記念行事は10月2日(日)実施。
 - ・2022年度澄川南小教育支援計画:全体は昨年と同様。予定日は未定。
 - ・6月からの支笏湖宿泊活動:コロナの対応状況をみて実施する方向で準備。
 - ・株じょうてつのCSR活動:年に4~5回来林。平日の活動日。育林・レク活動。5/26記念植樹。
 - ・ホームページ改修:保守と有償による改修が終了。 ・救急箱整理:合田さんによる確認必要。
 - ・今年度の研修旅行:コロナの状況を考慮して例年並みの計画。20周年記念研修は次年度以降。
 - ・マキ小屋整備:5月下旬から ・ヒヤリハット:子どもの植菌作業時に衣服にドリル先:検討必要

■ 活動履歴

月日	行事・活動地	参加人数	活動内容
4月17日(日)	澄川	14	第1回親子森林教室(開校式、森歩き、植菌)
4月20日(水)	野幌道有林	8	食害防止網修復(昨年度分)
4月21日(木)	札幌エルプラザ 2F 環境研修室1,2	15	第4回冬季セミナー:会員例会「2022年度活動計画」、「多面对策事業」、「コモドの森」
4月23日(土)	澄川	14	集材、苗畑整備、駐車場西側整理、植菌
4月26日(火)	澄川	10	作業道・木道見廻り、植菌、軽トラック整備
4月27日(水)	豊平区民センター3F	7	臨時幹事会
4月30日(土)	澄川	15	植菌、駐車場西側整備、E-7区集材
5月2日(月)	澄川	14	機械整備、ホダ木仮伏せ、木道用材準備
5月4日(水)	澄川	14	E-7区集材、マキ小屋準備、観察会、コモドの森
5月7日(土)	澄川	18	株切詰、植菌、作業道整備、コモドの森
5月9日(月)	札幌エルプラザ 2F	20	第20回総会
5月10日(火)	ラルズ生活研究センター2F	11	幹事会
5月11日(水)	澄川	13	澄川南小4年観察会支援、苗畑・ホダ場整備
5月13日(金)	野幌国有林	8	植生状況確認、稚樹マキング、作業計画
5月15日(日)	澄川	11	上流橋木道補修、コモドの森